

# 傘寿者における外出の頻度

## —— 杉並区健康長寿モニター事業のアンケート調査から ——

古谷野 亘<sup>1)</sup>, 澤岡 詩野<sup>2)</sup>, 安藤 雄一<sup>3)</sup>, 甲斐 一郎<sup>4)</sup>, 長田 斎<sup>5)</sup>

1) 聖学院大学, 2) 公益財団法人ダイヤ高齢社研究財団, 3) 国立保健医療科学院, 4) 東京大学, 5) 杉並区

### 第 56 回日本老年社会科学大会一般報告, 2014.6.

**【目的】** 介護予防事業の一環として多くの自治体が「閉じこもり」の予防・改善に取り組んでいる。東京都杉並区が区政 80 周年記念事業として 2012 年度より実施している「健康長寿モニター事業」では、80 歳の高齢者（傘寿者）を対象として、外出頻度を含む生活習慣や社会関係が、生命予後や医療費、要介護状態の発生等に及ぼす影響について観察されている。本報告においては、健康長寿モニター事業のベースラインデータから、80 歳高齢者の外出頻度について報告する。

**【方法】** 調査は 2012 年 9 月に、同年 4 月 1 日時点で満 80 歳であった区民の全数（3,749 人）を対象として郵送法により実施され、2,476 人から有効回答を得た。有効回収率は 66.0%であった。回答者の 93.2%は本人が回答しており、他は代理回答もしくは回答者不明であった。

外出の頻度は、「ほとんど毎日（週に 5 日以上）」～「ほとんど外出しない」の 7 段階（表参照）で質問した。移動能力については「障害老人の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準」により尋ねた。

本研究においては、個人情報情報を削除したかたちで同区から提供されたデータを分析している。な

お、本研究は聖学院大学研究倫理委員会の承認を得て進行中である。

**【結果】** 回答者の外出頻度は表のとおりであった。ほとんど毎日外出している者は 41.6%であって、女性（35.8%）より男性（49.8%）が多かった。他方、外出頻度が週 1 回未満の者は 8.5%（男性 8.3%、女性 8.7%）であって、性差は認められなかった。移動能力が「準寝たきり」（ランク A）以下で外出頻度が週 1 回未満の者は 2.3%（男性 2.1%、女性 2.4%）、移動能力が「自立」（ランク J）で外出頻度が週 1 回未満の者は 6.1%（男性 6.2%、女性 6.1%）であった。

**【考察】** 本調査に回答した杉並区の 80 歳高齢者の 9 割は週に 1 回以上外出しており、残り 1 割弱の外出頻度が著しく低い者のおよそ 4 分の 3 は移動能力に障害のない者であった。単一年齢の高齢者の外出頻度を報告している例はないので他地域との比較は困難であるが、新開ら（2005）が報告している 2 地域の高齢者よりも外出頻度は概して高く、移動能力の障害により外出困難になっている者は少ないと考えてよいであろう。

表 外出の頻度

(%)

	ほとんど毎日	週に 3～4 日	週に 1～2 日	2 週間に 1 回くらい	月に 1 回くらい	年に数回くらい	ほとんど外出しない	計 (n)
男性	49.8	27.4	14.6	3.5	1.4	0.4	3.1	100.0 (1,009)
女性	35.8	37.3	18.2	2.3	2.2	0.8	3.4	100.0 (1,420)
計	41.6	33.2	16.7	2.8	1.9	0.6	3.3	100.0 (2,429)

# 傘寿者における外出の頻度

## — 杉並区健康長寿モニター事業のアンケート調査から —

古谷野 亘<sup>1)</sup>, 澤岡 詩野<sup>2)</sup>, 安藤 雄一<sup>3)</sup>, 甲斐 一郎<sup>4)</sup>, 長田 斎<sup>5)</sup>

1) 聖学院大学, 2) 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団,

3) 国立保健医療科学院, 4) 東京大学, 5) 杉並区

### 杉並区健康長寿モニター事業

- 東京都杉並区が区制 80 周年記念事業として 2012 年度より実施。
- 80 歳時の健康状態（特に歯の健康状態）と生活習慣が、その後の健康と生活に及ぼす影響を、5 年間にわたりプロスペクティブに観察する。
- 2012 年 9 月に、同年 4 月 1 日時点で満 80 歳であった区民の全数（3,749 人）を対象として郵送調査を実施。同年 10～11 月には会場調査（面接調査、体力測定）と歯科医院調査を実施。
- 同意を得た区民 1,846 人のデータを、個人を特定できる情報を除いたかたちで、共同研究機関であるダイヤ高齢社会研究財団に蓄積し、解析する。
- 主な説明変数  
ベースライン（80 歳時）の健康状態（特に歯の健康状態）と生活習慣（食事、睡眠、運動、外出等）、社会参加・社会関係等
- 主な被説明変数  
生命予後、要介護・要支援認定、介護サービス利用、介護費、医療費等



### 本報告



- ベースラインの郵送調査のデータから、80 歳高齢者（傘寿者）の外出頻度について報告する。有効回答者数は 2,476 人、有効回収率は 66.0% であった。回答者の 93.2% は本人が回答しており、他は代理回答もしくは回答者不明であった。外出の頻度は、「ほとんど毎日（週に 5 日以上）」～「ほとんど外出しない」の 7 段階で質問した。
- 回答者のうち「ほとんど毎日外出している」ものは 41.6% であって、女性（35.8%）より男性（49.8%）で多かった。他方、外出頻度が「週 1 回未満」のものは 8.5%（男性 8.3%、女性 8.7%）であって、性差は認められなかった。移動能力が「準寝たきり」（ランク A）以下で外出頻度が週 1 回未満のものは、全回答者の 2.3%（男性 2.1%、女性 2.4%）であり、移動能力が「自立」（ランク J）で外出頻度が週 1 回未満のものは 6.1%（男性 6.2%、女性 6.1%）であった。
- 本調査に回答した杉並区の 80 歳高齢者の 9 割は週に 1 回以上外出しており、残り 1 割弱の外出頻度が著しく低いもののおよそ 4 分の 3 は移動能力に支障のないものであった。他地域との比較は困難であるが、新開ら（2005）が報告している 2 地域の高齢者よりも外出頻度は概して高く、移動能力の障害により外出困難になっているものは少ないと考えてよいであろう。

